

図 20 全被験者における嚙下 3 回目の舌圧波形の出現頻度

若年群では単峰型と二峰型が併せて 69 % の頻度であるのに対して、中年群では 39 %、高年群では 23 % と徐々に減少している。

若年群：111 名，中年群：35 名，高年群：73 名

■：単峰型，▣：二峰型，□：その他

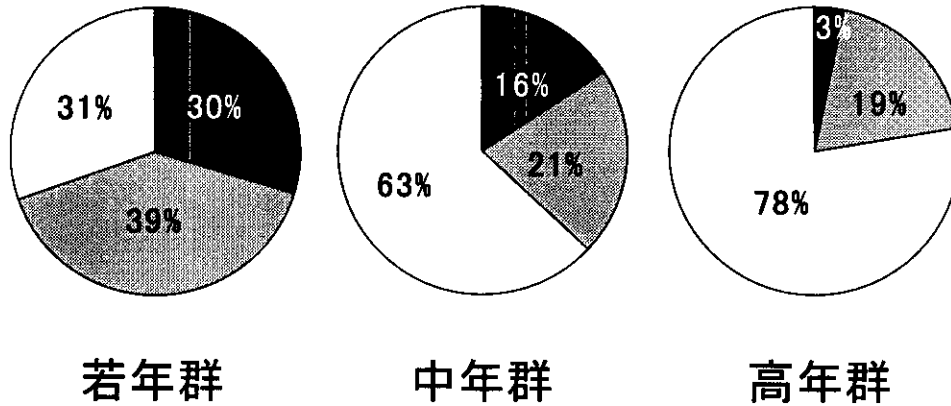


図 21 20 歯以上残存者における嚥下 3 回目の舌圧波形の出現頻度

若年群では単峰型と二峰型が併せて 69 % の頻度であるのに対して、中年群では 37 %、高年群では 22 % と徐々に減少している。

若年群：111 名，中年群：19 名，高年群：31 名

■：単峰型，▨：二峰型，□：その他

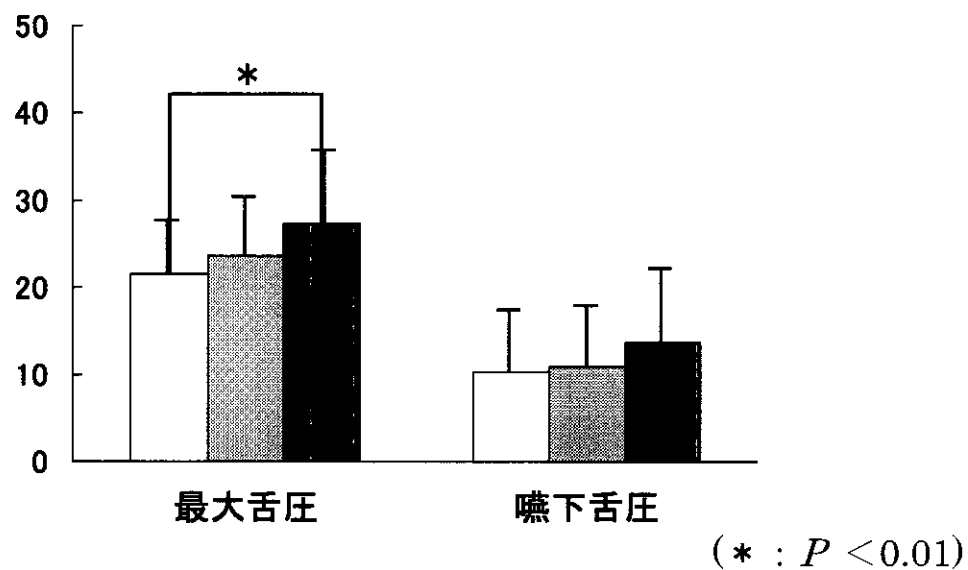
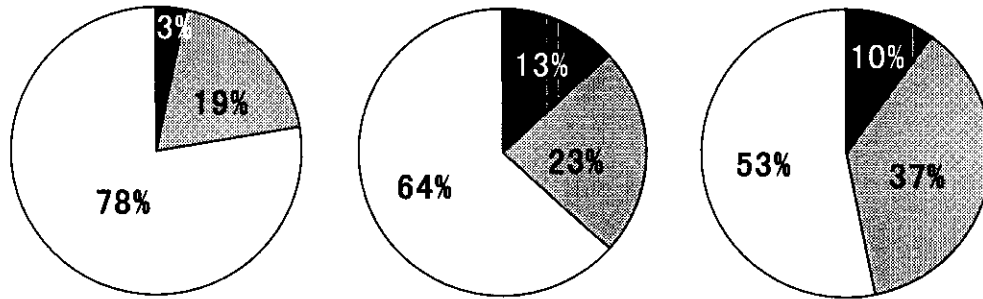


図 22 20 歯以上残存者群と上顎総義歯使用群の舌圧

20 歯以上残存者群と義歯群装着時の間には統計学的に有意な差は認められない。一方、義歯群非装着時には、20 歯以上残存者群との間で有意な差($P < 0.01$)がみられ、義歯群非装着時では 20 歯以上残存者群より大きな最大舌圧を示している。嚙下舌圧は 20 歯以上残存者群、義歯群装着時、義歯群非装着時で、いずれの間にも統計学的に有意な差は認められない。

□: 20 歯以上残存者群(31 名), ▨: 義歯群装着時(30 名), ■: 義歯群非装着時(30 名)



20歯以上残存者群 義歯群装着時 義歯群非装着時

図 23 20 歯以上残存者群と上顎総義歯使用群の嚥下 3 回目の舌圧波形の出現頻度

20 歯以上群では単峰型と二峰型が併せて 22 %であるのに対して、義歯群装着時では 36 %、義歯群非装着時では 47 %と増加している。いずれの各群間に統計学的に有意な差は認められない。

20 歯以上残存者群 : 31 名, 義歯群装着時 : 30 名, 義歯群非装着時 : 30 名

■ : 単峰型, ▨ : 二峰型, □ : その他

	男性	女性	計
若年群 (20-39 歳)	55	56	111
中年群 (40-65 歳)	11	24	35
高年群 (66-95 歳)	40	33	73

表 1 被験者群の人数

	男性	女性	計
若年群 (20-39 歳)	55	56	111
中年群 (40-65 歳)	5	14	19
高年群 (66-95 歳)	21	10	31

表 2 各年齢群における残存歯が 20 歯以上で可撤性床義歯を使用していない被験者数

下顎	上顎		
	NT	RPD	CD
NT	161	9	3
RPD	8	10	9
CD	0	1	18

表 3 義歯装着状況別にみた被験者数

NT：天然歯列，RPD：部分床義歯を装着，CD：総義歯を装着

	最大舌圧 (kPa) (平均値±標準偏差)	嚥下舌圧 (kPa) (平均値±標準偏差)
若年群	27.7±5.5	12.9±7.8
中年群	27.3±7.0	10.8±7.3
高年群	23.2±7.2	10.7±6.9

(* : $P < 0.01$)

表 4 全被験者の各年齢群別の最大舌圧と嚥下舌圧

	最大舌圧 (kPa) (平均値±標準偏差)	嚙下舌圧 (kPa) (平均値±標準偏差)
若年群	27.7±5.5	12.9±7.8
中年群	28.4±4.4	11.9±7.3
高年群	21.5±6.9	10.3±7.0

(* : $P < 0.01$)

表 5 20 歯以上残存者の各年齢群別の最大舌圧と嚙下舌圧

	男性	女性	計
20 歯以上残存者群	21	10	31
上顎総義歯使用者群	15	15	30

表 6 20 歯以上残存者群と上顎総義歯使用者群の被験者数

下顎	上顎		
	NT	RPD	CD
NT	31	0	3
RPD	0	0	9
CD	0	0	18

表 7 義歯装着状況別にみた被験者数

NT：天然歯列， RPD：部分床義歯を装着， CD：総義歯を装着